

【報告様式】

課題名：さといもの産地づくりによる水田農業の振興

所属名：北薩地域振興局さつま町駐在

発表者名：中渡瀬 久成

＜活動事例の要旨＞

さつま町で、水田農業の振興を図るために水田を生かしたさといもの産地づくりに取り組んだ。その結果、湛水栽培技術や疫病対策、子いも分離機の利用、ドローン防除など生産性向上が図られた。また、柊野地区をモデル地区に選定し、技術習得と生産体制づくりの支援し、さといもの面積拡大と栽培技術向上が図られた。

1 活動の課題・目標と策定過程

(1) 課題・目標と設定理由

ア さつま町は、耕地面積の7割を占める水田において高収益作物の作付を推進しており、なかでもさといものは最重点品目である。令和7年度の目標面積目標は20haで、特に水田で面積拡大する計画である。

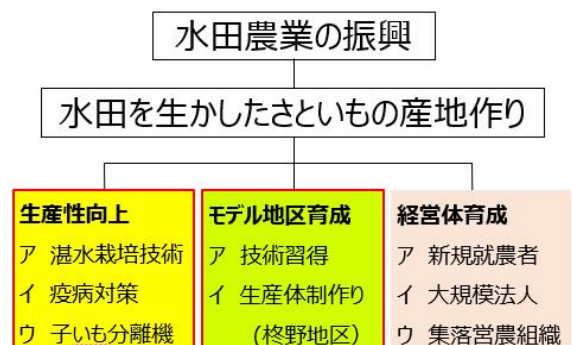
イ さといもの生産は、気象条件（特に少雨）や疫病被害により安定していない。また、収穫調整作業や疫病防除は、多大な労力を要するため、規模拡大の抑制要因となっている。そこで、生産性向上・省力化の取組を進める必要がある。

ウ 柊野地区では、基盤整備と一体的に高収益品目としてさといもの導入拡大を図る計画があるが、栽培技術や機械装備、労力面において課題がある。そこで、技術習得や生産体制づくりを支援し、水田営農モデル地区へ育成する。

(2) 計画の策定過程

普及指導計画は、実態調査や意向調査をもとに現状と課題を整理し、関係機関と調整を行いながら、それぞれの目標や計画と整合性をとって策定した。技術確立・普及に関する活動は、野菜産地の産地課題の中に位置づけられており、調査研究課題にも取り上げた。

また、地域づくりや経営体育成に係る活動は、地域営農課題や担い手育成課題の中に位置づけた。



2 普及指導活動の内容

(1) 活動の経過

【生産性向上】

ア 湛水栽培技術について、地域主要品種への効果確認や排水対策の実証等を行いながら、技術確立・普及を図った。

イ 疫病対策として、防除実態調査や発病調査を行いながら、予防・初発防除を基本とする適期防除指導を行った。

また、町内の業者に委託してドローン防除の実証を行った。

ウ 数種類の子いも分離機について、分離作業実態調査や実演会等を行い、個別の農家にあった分離機を提案した。



【モデル地区の育成】

杵野地区でさといも部会の設立を支援し、月1回の現地検討会で栽培技術や機械の共同利用、共同作業等を提案し、生産体制づくりの支援を行った。

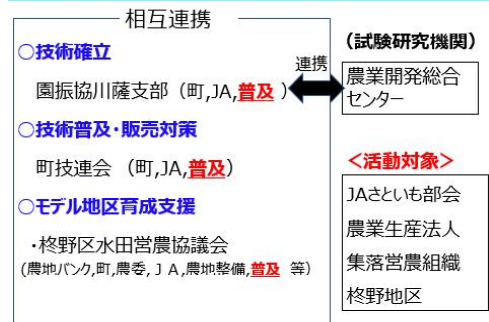
【経営体育成】 ※当日説明は省略

新規就農者や大規模法人、集落営農組織などに対し、課題に対応した支援を行った。

(2) 指導・支援の体制

- ア 技術指導体制（園振協川薩支部、さつま町技連会との連携）
- イ モデル地区の指導体制（杵野区水田営農協議会、地区内中心経営体との連携）
- ウ 研究機関との連携（湛水栽培の実証、子いも分離機の活用）

4 活動体制と関係機関の連携



3 普及指導活動の成果

(1) 目標の達成状況とその要因

- ア 湛水栽培は、地域品種・作型への適応性を確認でき、普及が進んだ。

H30 1名、1.1ha → R5 19名、4.7ha

- イ 疫病の予防・初発防除の理解・実践が進んだ。

7月までの防除率 R3:34% → R5年61%

- エ ドローン防除の有効性が確認でき、防除を委託する農家が育成された。

- ウ 県開発の子いも分離機は、3台が導入され、R4年度は6名が利用し、分離作業の省力化が進んだ。

- エ ドローン防除の有効性が確認でき、防除を委託する農家も出てきた。

- オ モデル地区の栽培面積は、平成30年の1名、0.1haから令和5年は7名、1.1haと増加した。また、さといも部会や機械の共同利用組合の設立、共同作業の実施計画の策定など、生産体制のしくみづくりが進んだ。

- カ 以上の取組により、町のさといも栽培面積は、水田を中心に増加し、水田農業の振興につながった。

H29 13ha（内、水田4.9ha） → R4 18.6ha（同、9.9ha）

(2) 活動に対する生産者・農家の評価

- ア 湛水栽培技術や子いも分離機、ドローン防除は農家から評価されており、普及が進んでいる。

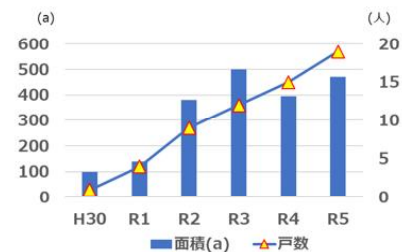
- イ 杵野地区の生産者に支援の目的が理解され、生産意欲の向上につながっている

(3) 地域農業振興への貢献

- ア 水田農業における高収益品目として、さといもの技術体系・機械化体系を示すことができ、産地拡大の基礎をつくることができた。

- イ 地域計画のモデル地区で、地域の農家の連携による高単収・低コストのモデルを示すことができた。

○活動の成果（湛水栽培技術の普及）



湛水栽培の普及状況（農家数、栽培面積）

H30：1名、1.1ha → R5：19名、4.7ha

4 今後の普及指導活動に向けて

(1) 今後の課題

さといも生産者の増加や規模拡大による産地の更なる発展

(2) 今後の活用に向けて

水田さといもを基幹とするモデル農家の育成や杵野地区のモデル事例の他地区への波及